

1 児童生徒の学びをサポートするICT活用

(1) 主体的な学び

こんな実践

観察のポイントをもとにタブレット端末のカメラ機能などを用いて対象を撮影することで、より詳しく観察したりメモをとったりすることができ、その画像を用いて友達との話し合いを通して観察文の書き方を学習する実践です。

実践学校 A小学校

実践学年 2学年

実践時期 5月下旬

単元・題材名「かんさつ名人になろう」

学習指導要領との関連 B 書くこと (1) イ

- 子どもたちはタブレット端末を用いて、一人一人が観察したい対象に向き合いました。いろいろな角度から観察対象を拡大することができ、すぐに記録することができました。さらに、気が付いたことをメモしていきました。いろいろな角度から観察することによって、対象に対しての見方が広がりました。
- 対象の動きをメモした児童がいました。その児童は、カメラの動画機能を用いて対象の動きを記録し、その動きをメモに記していました。また、自分が見つけた動きの動画を友達と見ながら、共有することができました。
- 観察中、黒板のスクリーンには、友達が何をしているかを一覧で表示しています。この一覧を参考にし、自分と友達のメモの取り方を比較し、友達のよさを取り入れて、自分のメモをよりよいものにしようとする姿がありました。
- 右の児童は、スクリーンの一覧を見ながら、友達が「かんさつのポイント」の何を使っているか確認していました。自分を使っている「かんさつのポイント」と見比べて、足りない部分に気づき、書き足す姿がありました。



- メモをとった後、観察文にまとめます。タブレット端末で記録した写真を手がかりに、画面上で拡大するなどしてより詳しく書こうとする姿が見られました。



ここがポイント！

- ・観察する対象をタブレット端末のカメラ機能で撮影することで、対象を丁寧に細かく見ることができ、「かんさつのポイント」をもとにメモがとりやすくなります。タブレット端末はまさに、カメラ機能つきノートです。
- ・タブレット端末を用いることで、容易にいろいろな角度からの写真を撮ることができ、新たな対象への発見があります。
- ・タブレット端末を用いることで観察対象が画像として残ります。そこにメモしていくことで、友達との共有場面において、より具体的な話し合いができます。

まとめ

- ・タブレット端末を用いることによって、「こうやって撮りたい」「ここを観察したい」という児童の思いを容易に実現し、見方を変えたり、動きをとらえたりするなどして対象をよく観察することができました。子どもたちの「意図したものを撮影し取材する力」や「必要な情報を取捨選択する力」を発揮するきっかけになりました。